

いしき物やきけり多し余りまきりて  
いしき物やきけり多し余りまきりて  
いしき物やきけり多し余りまきりて  
いしき物やきけり多し余りまきりて  
いしき物やきけり多し余りまきりて  
いしき物やきけり多し余りまきりて  
いしき物やきけり多し余りまきりて  
いしき物やきけり多し余りまきりて  
いしき物やきけり多し余りまきりて  
いしき物やきけり多し余りまきりて

源崇正

先頃尾州台伊織取く好うたる実の中あり  
もの二品あり一果を赤大豆の如くして色赤  
一果を三角より蕎麦の如く色赤  
一果を白豆の如くして白一扁一以上三品  
とも惣州の春本集人これと園中みける  
よ赤豆の如く名も赤豆のものなり  
似るものハ即ち白豆の如くもの  
をせふ似る苗生れとりて件の如く江戸



まも肩よりせせし一葉成るあり何れも  
 白豆のやわらうものたし生れたれと身なる  
 所くくせの葉とくありて形如圖



一 猪下

猪下のたし一葉成るあり何れもや伊勢の葉と  
 貞順の書なりけし書子肩より稗の衣かたりたる  
 肉よりそと而若くはこれか正の時に生れしとあり  
 子は有りて一人あり

杉井英信